

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立日新小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
| 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

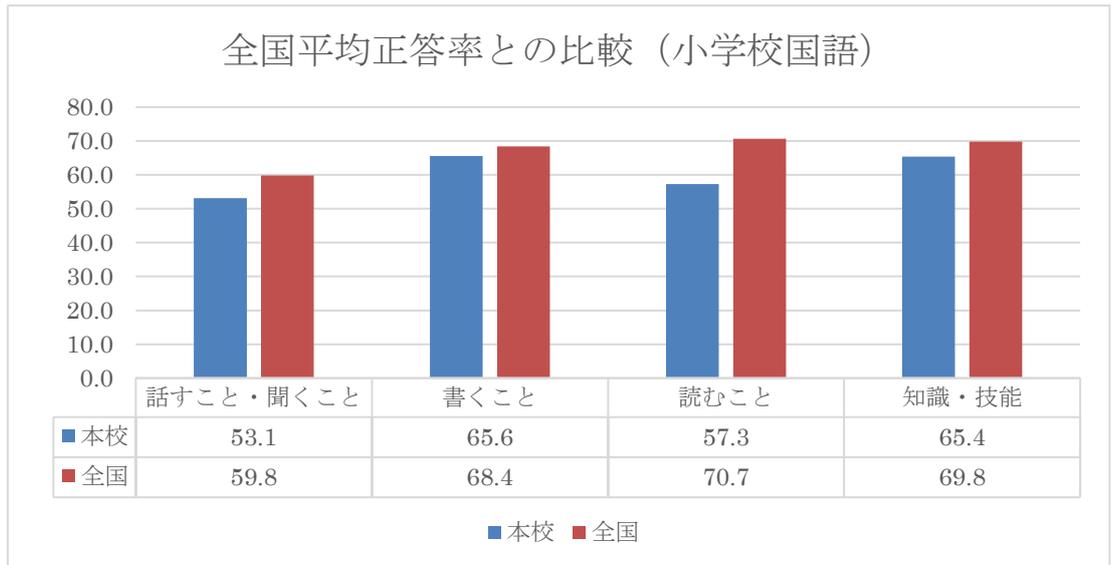
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全体では、全国平均正答率を6.7ポイント下回っています。特に「読むこと」では、全国平均正答率を13.4ポイント下回っています。無解答率は全国平均よりも高く、特に問題形式の「短答式」「記述式」において、無解答率が高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話し言葉と書き言葉との違いに気付く」設問において、全国平均正答率を2.2ポイント上回りました。また、前半の設問の無解答率が低く、集中して丁寧に取り組もうとした児童が多くいました。

課題は、「読むこと」の正答率、問題形式の「短答式」「記述式」の無解答率を下げ、正答率を上げることです。具体的には、「物語文の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「心に残ったところとその理由を条件に合わせて書くこと」「文の中で漢字を正しく使うこと」をみる設問において、正答率が全国平均を大きく下回りました。また、正答率の高い児童と低い児童のばらつきが大きく、個に応じた指導も必要です。授業改善を通して、日々の授業で力を付けることができるよう取り組んでいきます。

(3) 学力向上のための取り組み

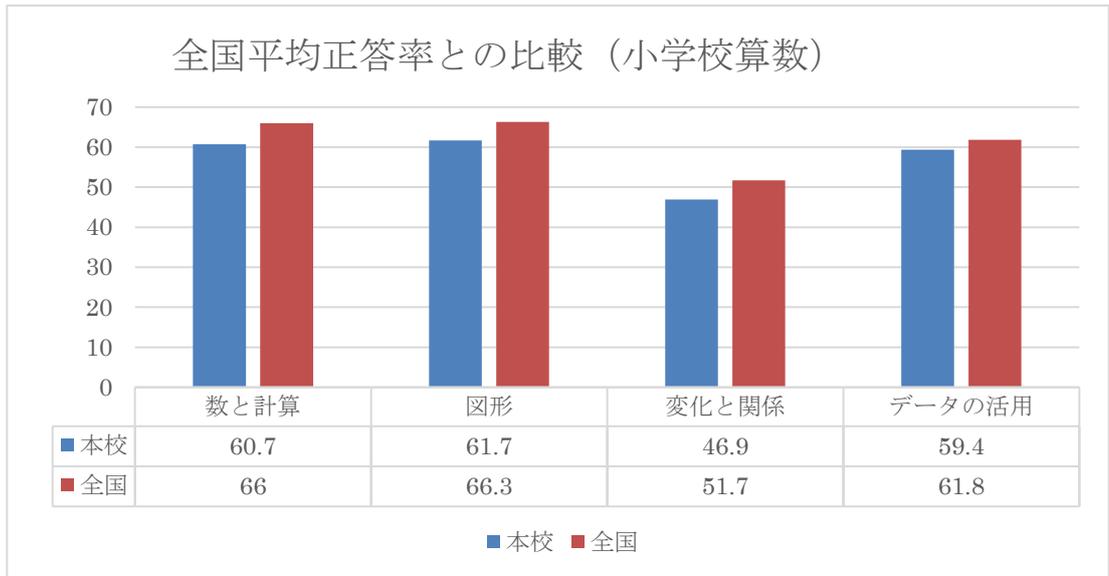
【学校では】

- 子供が主体的に学べるように、授業の在り方を引き続き工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、自分の考えをもちながら、深く学ぶことができるようにします。
- 自分の思いや考えと、その根拠となるもの（叙述や自己の内面、経験など）を関連付けて書いたり話したりする機会を増やします。
- 日常的に漢字を用いる習慣を身に付けさせます。また、読書指導とあわせて、語彙力を増やします。
- 個に応じた指導を行い、全体の底上げを行います。

【ご家庭では】

- 音読や読書を大切にしましょう。読み飛ばすことなく、丁寧に音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、考えながら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。また、いろいろな本を読み、豊かな表現や様々な用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。
- お子さんの日々の取組に興味をもち、共感したり、根拠を尋ねたりしながら交流しましょう。

2 算 数



(1) 結 果

全体では、全国平均を4.4ポイント下回っています。無解答率は、全国平均よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「数量の関係を□を用いた式に表す」「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」設問において、全国平均正答率を上回りました。問題形式の「短答式」「記述式」は、全国平均正答率を下回っていますが、無解答率と合わせると、解答した児童の正答率は全国平均程度と考えられます。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの成果が表れていると考えられます。

課題は、基礎・基本の定着です。例えば、「数と計算」領域の「知識・技能」をみる「問題場面の数量関係を捉え、式に表すこと」「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している」「除数が小数である場合の除法の計算をすること」の設問において、正答率が全国平均を大きく下回りました。問題場面から課題解決に必要な情報を抜き出し正しく立式することや、四則演算を正確に行うことは、どの領域においても基本となります。また、国語同様、正答率の高い児童と低い児童のばらつきが大きく、個に応じた指導も必要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基本的な問題を繰り返し、基礎的な力を高めます。
- 問題場面から、問われていることや課題解決に必要な情報を抜き出し、全体で確認・共有するなどして、問題場면을正しく把握し、立式・解答する力を高めます。
- 式、絵や図、具体的場面を行き来し、関連付けながら考えるとともに、友達と自分の考えを比較・交流する場を多く取り入れ、みんなで理解を深めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのノートやプリント等の宿題の様子、テストをご覧になって、お子さんの学習状況を知るとともに、取組状況や成長に目を向け、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 生活場面と算数をつなげることで、学んだことを使うことができます。「おかし分けで割り算」「おでかけ先までの距離と時間」「買い物で暗算や1個あたりの値段」「いろいろな単位換算」など、ちょっと意識するだけで、算数とつなげて考えることができます。

3 生活習慣や学習習慣等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己有用感・規範意識について》

調査項目	本校	全国平均
朝食を毎日食べていますか。	84.6%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	41.5%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	52.3%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	26.2%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	50.8%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	66.2%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	76.9%	79.5%

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にするため、引き続き家庭と学校で協力して、規則正しい生活の習慣化を目指します。自己有用感や規範意識を更に高めるために、学校でも子供達のよさを見出し、それを認めたり、励ましたりしていきますので、ご家庭でも称賛や励ましをお願いします。

《学習習慣の様子》

調査の項目	本校	全国平均
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	26.2%	30.3%
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	9.2%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	16.9%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	24.6%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	26.2%	27.0%
「30分より少ない、または全くしない」	23.0%	18.3%

自分で学び方を考え、工夫することについて、全国平均より低くなっています。家庭学習については全国平均よりやや低く、1時間未満の児童が5割近くいます。個人差が大きいので、「家庭学習のすすめ」をもとに家庭学習の意味を伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 「ぽかぽかカード」の活動を中心に、自己有用感や自尊感情を高め、学習の下支えとします。
- 学年に応じた宿題を出し、家庭学習の目標時間（10～15×学年）を示し、家庭学習を促しています。学年の実態に応じて、自主学習（自学）についても取り組み、多様な内容を紹介し、定着を目指します。
- 「自立」に向かって、主体的に考え、行動することができるように、教育活動の多くの場面で役割や出番を設け、取組を励ましたり称賛したりします。

【ご家庭では】

- ゲームや携帯電話の使用のルール等、家庭でのルールについてお子さんと話し合って決めることで、生活習慣の向上につながります。役割を与えて褒めることで、自己有用感が高まります。
- 家庭学習は学校の授業とつながっています。家庭学習が自分のための学習となるように意識し、計画的に取り組むことが大切です。学習の様子を見守っていただく中で、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。